

■児童・生徒の学力の状況

○今年度のRSTの結果において、全学年で「6分野平均」の能力値が全国平均を上回っており、基礎的な読解力の土台が形成されていることが確認できた。分野別に見ると、全学年で「イメージ同定」および「具体例同定（特に辞書）」の能力値が全国平均を大きく上回っており、図表と文の対応や定義の理解を得意とする生徒が多い傾向が継続している。一方で、1年生および2年生においては「同義文判定」の能力値が全国平均を下回っており、2つの文が同じ意味かどうかを正確に判定する力に課題が見られる。文の基本構造を把握する「係り受け解析」や、代名詞の内容を理解する「照応解決」は全国平均を超えているものの、それらを組み合わせて文意を照合するプロセスに、よりきめ細やかな指導が必要であると考えられる。

○今年度全国学力・学習状況調査の結果において、国語、数学の本校正答率はすべての内容で全国平均平均値を上回った。一方で、英語において、「目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができる」、「事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く」項目の本校正答率は全国平均を下回った。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○生徒が主体的に学ぶ授業への転換（自己調整学習の導入と効果的運用）

○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実

○「志五中授業スタンダードS」の共通実践

- 1 目標・流れの提示→学習方法の選択→振り返り
- 2 生徒が自走できるよう、教師は伴走者となる

○全国学力・学習状況調査RST、WEB-QUを分析し、有効に活用すること。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○主体的・対話的で深い学びの実現
生徒が自ら考え、仲間との対話を通して学びを深める授業を推進し、学びの質を持続的に高めていく。

○「志五中授業スタンダードS」による授業改善
全教員が共通の授業スタイルを実践し、生徒の将来につながる力の育成を実現することで、学習意欲と学力の向上を図る。

○ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実
一人一台端末等を効果的に活用し、生徒一人ひとりの学習状況に応じた支援と、生徒同士が学び合う協働的な学習を推進する。

○学び続ける力（自己調整力）の育成
学習の振り返りや自己評価を重視し、自ら課題を設定・改善しながら学び続ける力を育成する。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○授業スタンダードと組織的な授業改善 教科や学年を越えて授業を参観・協議し、実践を共有することで、学校全体で授業力の向上を図る。	○研究推進委員会を中心にICTの活用を通して自己調整学習や協働的な学びを実現する授業を推進する。	○探究的な学習・自己調整学習の充実 課題を設定し、情報を収集・整理・発信する活動を通して、課題解決能力や思考力・判断力・表現力等を育成する。
○学習評価と自己調整学習の充実 振り返りを充実させ、生徒が自らの学習を調整しながら学び続ける力を育成する。	○GIGAスクール構想に基づき、「チョーク&トーク」型授業からの脱却を図り、生徒が端末を主体的に活用する場面を意図的に設定する。	○地域・社会とつながる学びの推進 地域や関係機関と連携した学習を通して、社会との関わりや将来について考える力を育成する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○小中一貫教育の推進 小学校との授業交流や研究協議を通して指導方法の共通理解を図り、系統的・継続的な指導を推進する。	○豊かな心の育成 道徳教育や人権教育を充実させ、自他を尊重し、思いやりの心と豊かな人間性を育成する。	○一人ひとりに応じた支援の充実 生徒の実態や教育的ニーズに応じた指導・支援を行い、誰もが安心して学べる教育環境を整える。
○学びの円滑な接続 児童・生徒の学習状況や生活面の情報を共有し、小学校から中学校への円滑な接続を図る。	○自己肯定感・自己有用感の向上 学校行事や生徒会活動、ボランティア活動を通して、自己肯定感・自己有用感を育む。	○校内支援体制の充実 特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会やケース会議を活用し、組織的な支援を推進する。
○9年間を見通した資質・能力の育成 教科指導や生活指導の連携を深め、主体的に学び続ける力や社会性を育成する。	○健やかな体の育成 保健体育や部活動、健康教育を充実させ、運動習慣の定着と健康の保持・増進を図る。	○関係機関との連携 保護者や関係機関、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携を強化し、切れ目のない支援を行う。
○保幼小との連携の充実 交流活動や情報共有を通して、発達段階に応じた切れ目のない支援を推進する。	○安心して学べる学校づくり 教育相談やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携を充実させ、一人ひとりが安心して学校生活を送れる環境を整える。	○個別最適な学びの推進 ICTを活用し、一人ひとりの学習状況や特性に応じた学びを充実させる。